北京の「グリーンオリンピック」

任 愛軍

北京市中心部の天安門広場から約15km北に、オリンピック公園がある。ここは2008年8月に開催される「北京オリンピック（第29回オリンピック競技大会〈2008／北京〉）」の心臓部で、オリンピック競技会場の44%が集まる。

2008年1月31日、オリンピック公園の中の、水上競技の会場となる国家水泳センター（愛称「水立方：ウォーターキューブ」）で、初めての公開試合が行われた。

水立方は、1437枚の水泡を型取った水色のフィルムで外壁が覆われた美しい建物で、メインスタジアムとなる「鳥の巣」と並ぶ北京オリンピックの象徴的な競技場である。日光が水立方を照らすと、青い空と白い雲がその水色の「泡」を引き立て、まるで一幅の美しい絵画のようになり、触ってみたいと思わずにはいられない。

北京は今、この水立方を代表とするような現代建築が目まぐるしいスピードで次々と建設され、悠久の歴史に彩られた文化と建築技術の最先端の結晶が、桁外れのス

ケールで共存している。これはオリンピックの開催が北京市にもたらした巨大な変化である。「北京オリンピックは改革開放で発展した新しい中国の姿を世界に示す場だ」と語った胡錦濤国家主席の意気込みが伝わってくる。

グリーンオリンピックの実現に取り組む

オリンピック競技大会の主催に当たっては、一流の競技会場とともに一流の周辺環境も整えなければならぬ。北京オリンピックは環境保護の理念を大々的に提唱しているため、2001年7月13日にオリンピックの招致に成功した日から、中国は、「グリーンオリンピック」の方針を積極的に掲げ、さまざまな準備活動を進めてきた。グリーンオリンピックの取り組みは、現段階ですでに大きな成果を上げているといえる。

グリーン（エコロジー）とは、「環境保護」「資源保護」「バランスを維持する」など持続可能なエコロジーという考え方で、中国の

人々に環境保護の概念を根づかせると同時に、開催都市である北京を「環境に優しく、生態環境を重視する都市」に変化させたいというねらいがある。このため、北京市政府は各方面への対策を着実に実施している。

まず、北京市園林緑化局の副局長である強健氏は、オリンピック開催1年前の時点で、北京がオリンピック誘致の際、国際オリンピック委員会（IOC）から求められ承諾した7つの緑化プロジェクトを、すべて実現させたとしている。

すなわち、①北京市内全域の樹木被覆率を50%に近づける、②山間部の樹木被覆率を70%にする、③都市部の緑化率を40%以上にする、④北京市内全域で3つの緑化生態保護壁（グリーンベルト）を整備する、⑤「5つの河川と10の幹線道路」の両側を2万3000haの緑地帯にする、⑥北京市街地区に1万2000haの緑地隔離帯をつくる、⑦北京市内全域の自然保護区面積が市面積の8%を下回らないようにする——である。

次に、競技場の設計にもエコロジーの理念を導入している。たとえば水立方は、中国で初めて高性能フッ素樹脂ETFEフィルムを利用した体育施設で、世界で面積が最も広く、最も複雑な機能を持つ膜で覆われた施設である。この素材は光・熱を制御しながら意匠性を高められ、かつ環境への影響も最低限にとどめることができる。

さらに、大気汚染を抑制するために「奇数偶数ナンバーによる車両制限のテスト」を実施し、期待された効果が得られたため、オリンピック開催期間中も同様の車両制限措置が取られるという。

現在、北京市の自動車数は1日当たり約1000台のスピードで増加している。統計によると、1978年には7万7000台であった北京市の自動車保有は、1997年には100万台、2003年の8月には200万台に達し、2007年5月には300万台を超えており、北京の交通事情の悪化は容易に見てとれる。

奇数偶数ナンバーによる車両制限のテストは、2007年8月17日から20日の4日間行われた。対象は、オリンピック会場や宿泊施設が集中する環状4号線内を走行するバスとタクシーを除くすべての車両で、奇数日にはナンバーの末尾が奇数の車、偶数日には偶数の車を

通行可能とし、違反者には罰金100元（約1500円）が科せられた。

この4日間のテスト結果によると、主要道路の交通量は通常より3割（約130万台前後）減、幹線道路の交差点でも渋滞は見られず、汚染物質も確実に減少した。

オリンピック期間中は、この奇数偶数ナンバーによる車両制限措置のほか、長安街、環状2号線、環状3号線、環状4号線、環状5号線、空港高速道路におけるオリンピックレーンの開設、オリンピック会場およびその周囲200mへの出入規制、地下鉄の乗車規制、なども実施されるとのことである。

同時に、市民の外出にできるだけ影響が出ないように、バスの増便が検討されている。特に地下鉄の通っていない場所やオリンピック関係地区には臨時バスを走らせ、運行時間も延長される予定となっている。

そのほか、北京市の自動車用ガソリンの排ガス基準の新規適用、北京市内に工場を持つ中国鉄鋼大手の首鋼集団の一部生産停止など、さまざまな対応措置を行っている。

空気がきれいな日が続く見込み

北京市環境保護局の統計によると、2007年は1年を通して245日

間が空気のきれいな日であった。また2008年1月は、市街区の空気の質が2級レベル以上をクリアした日は22日と、月のうちの71%で、同月の空気の質基準達成日数は、2000年以来最多を記録した。北京の空気の質は9年連続で改善されてきている。

空気の目標値達成状況をもとに、オリンピック期間中は交通規制措置をとり、一部の土木作業や石材加工作業、コンクリート攪拌作業などを一時的に停止することとなっている。こうした試みにより、2008年8月のオリンピック開催中、空気の質は連日2級レベルが保たれる見込みである。

北京でオリンピック観戦を

北京オリンピックを契機に中国の国際的イメージと国際的地位を引き上げるため、今、中国の国民は力を合わせてラストスパートをかけている。皆、このオリンピックが成功するよう期待している。北京オリンピックは日本の方々には北京を見ていただく良い機会と考えており、私たちはぜひ皆様に、オリンピック観戦に来ていただきたいと思っている。

任 愛軍（レン・アイジュン）
NRI北京総務部課長